

夜回り

山田先生

西陵商ラグビー部元監督

▶13◀

緊急事態で求められる素早く的確な行動



▼山田耕二(やまだ・こうじ) 名古屋市中区生まれの73歳。元ラグビー日本代表。西陵商(現西陵)監督として1997年、全国高校大会で愛知県勢初優勝に導く。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

女子のマネジャー希望者に提示した条件で、特に大事な項目がある。それが「救急車よりも速く走れる」だ。実際には救急車より速くは走れない。例えではあるが、とても大事なのだ。

振とうを起こす。1分、1秒の遅れが致命的になる。適切な応急措置を施し、119番通報、病院にも素早く連絡する。鉄製の重い校門を押し開け、救急車を誘導する。救急隊員には「今はこういう症状で

ケガをした生徒の家族に連絡し、落ち着いて話を聞いてもらうのも大切だ。緊急事態で冷静に、素早く的確な行動ができる。そんなマネジャーの存在はチームに欠かせない。部員を温かい目で見守るとも大事だが、ラグビーは体

をぶつけ合うとても激しいスポーツ。大事故とも隣り合わせだから、マネジャーの素早い行動一つ一つが生死を左右することすらある。

この「項目」を守れることは、社会に出ても、また家庭内でも、緊急事態が起きた時に生きる。同僚や家族を守る心構えと経験を培うことにもなるからだ。マネジャー希望の生徒の保護者からは「いたい、うちの子をなんだと思ってるのか」といって、たお叱りのお電話をもらったこともある。でも卒業する時には「とても心配りのできるいい子に育ちました。最高の花嫁修業になりました」と感謝の言葉もいただいた。職場でも「よく心配りができる」、「目の付け所が違う」とほめられているという。

マネジャーに要望『救急車より速く』

例えば、試合中に選手が脳

…」などの確な説明をする。

は、社会に出ても、また家庭内でも、緊急事態が起きた時

でも「よく心配りができる」、「目の付け所が違う」とほめられているという。